

令和7年度

入試問題集

国語

学校法人藍野大学
明浄学院高等学校

以下の【一】～【四】の字数制限のある問題はすべて句読点や記号も字数に含めて答えること。

【一】 語句に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤のことわざ・慣用句の空欄部□に入る動物を後のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① □の耳に念仏 ② 窮鼠きゅうそ □をかむ ③ □にひかれて善光寺参り ④ □に論語 ⑤ 虎の威を借る□
- ア 馬 イ 犬 ウ 牛 エ 猫 オ 狐きつね

問二 次の①～⑤の文が適切な敬語表現を用いたものとなるように、ア・イいずれかを選び、記号で答えなさい。

- ① 昨日、御社の社長が弊社に（ア いらっしやい イ 参られ）ました。
- ② こちらの絵画をぜひ（ア 拝見 イ ご覧）ください。
- ③ 来週から始めると母が（ア 申して イ おっしゃって）おりました。
- ④ こちらのお料理は私が（ア 召し上がり イ いただき）ます。
- ⑤ 本校の校長が御校に（ア 伺われた イ 伺った）と聞いています。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

飛べない鳥は、飛べない代わりにさまざまな能力を持っている。

たとえば、ペンギンはものすごい速さで泳ぐことができる。ダチョウは、力強く大地を走ることができる。

それでは、キーウィはどうだろう。

キーウィは飛べない鳥である。翼は退化して、わずかな痕跡^①が残るだけだ。

しかも、キーウィはペンギンのように泳ぐこともできない。ダチョウのように力強く走ることもできない。ただ、地面の上を歩き回るだけだ。

キウイフルーツは、この鳥に似ていることから名付けられた。まるで、フルーツのような丸く太った姿。それがキーウィなのだ。

神さまはどうして、こんな（ア ）な生き物をお創りになったのだろう。

鳥は恐竜から進化したとされている。

小型の恐竜が翼を持つようになり、やがて空を飛ぶようになったのである。

最近の研究では、ティラノサウルスも羽毛を持っていたと言われている。しかし、ティラノサウルスは、翼を発達させることはなかった。むしろティラノサウルスの前脚は小さい。

翼を発達させたのは、小型の恐竜たちである。

地上にはティラノサウルスのような大型の恐竜がひしめいている。小型の恐竜に勝ち目はまったくない。

それならば、高い木の上で暮らすのはどうだろう。高い木の上であれば、大型の恐竜と争い合うことはないし、襲われて食べられてしまうこともない。

そこで小型の恐竜の中には、高い木の上で暮らすものが現れた。そして、木から木へと飛び移るうちに、便利な翼を発達させた。そして、やがて自由に大空を飛ぶことができるようになったのである。

こうして進化を遂げたのが鳥である。

鳥は大空を自由に飛び回る翼を手に入れた。

そのはずなのに、キーウィは飛ぶことができないのである。

キーウィは飛べない鳥である。

しかし、である。

^bそもそも、どうして飛べなければならないのだろうか。

鳥は飛ぶのが当たり前のような気もするが、鳥にとっても「飛ぶ」という行為は思った以上にエネルギーを必要とする。

道路にいるカラスは車が近づいても、すぐには飛び立たずに、ぴよんぴよん跳ねながら逃げていく。公園のハトでさえ、追い立てても簡単には飛び立たずに、できるだけ走って逃げようとする。

飛ぶということは、エネルギーを^②シヨウモウする行動である。鳥たちも、飛ばずにすむのであれば、できるだけ飛ぶことを避けたいのだ。

そういえば、もともと鳥の翼は、大型の恐竜から逃れるために発達したものであった。

現在でも鳥の翼は、肉食動物などの捕食者から身を守るために機能している。

もちろん、「飛ぶ」ということは、敵から逃れるためだけのものではない。翼があれば、遠くまで移動することもできる。

しかし、どうだろう。

そうであるとするれば、敵から逃れる必要もなく、移動する必要もないような、^③居心地の良い場所であれば、無理に飛ぶ必要はないということになる。

キーウィは、天敵も存在せず、移動する必要もない居心地の良い楽園をすみかにする。

キーウィはニュージーランドに生息する鳥である。大陸から離れたニュージーランドは、大型の哺乳類が存在しなかった。キーウィを襲う肉食獣もないし、キー

ウイとエサを奪い合うような動物もない。そのため、キーウイは必要のなくなった翼を捨てて、飛ぶという無駄な能力もやめてしまった。

飛ばなくて良いから、飛ばない。ただ、それだけのことである。

鳥だから翼を持たなければいけないということはない。

鳥だから飛ばなければいけないという決まりもない。

キーウイは飛べなくなったのではない。飛ばなくなったただけだ。

キーウイは飛べない鳥ではない。「飛ばない鳥」なのだ。

それだけではない。

それどころか、キーウイは、ペンギンのように水中にエサを求めたり、ダチョウのように力強く走る必要もない。

キーウイは、ありあまったエネルギーをどうしているのだろう。

じつは、キーウイは大きな卵を産む鳥として知られている。

もちろん、体の大きなダチョウの卵にはかなわないが、自分の体の大きさに対する割合では、世界でもっとも大きな卵を産む鳥である。

キーウイのメスは、自分の体の二割ほどもある巨大な卵を産むというから驚きである。

すべての生物にとって、もっとも大切なことは、子孫を残し、未来に命をつないでいくことである。そうだとすると、キーウイは生き物として、もっとも大切なことにトウシ^④をしていることになる。大きな卵から生まれた大きなヒナは、小さなヒナよりも生存率が高いのだ。

「鳥が飛ぶのが当たり前」ではない。「鳥は飛ぶべきである」も間違いである。人間が勝手に決めた枠組みの話に過ぎない。

鳥だって飛ぶ必要がなければ、飛ばなくたっていい。

本当は、飛ぶことよりも大切なことがある。

それが、「飛ばない鳥」、キーウイの生き方なのである。

(稲垣栄洋『ナマケモノは、なぜ怠けるのか?』による)

問一 二重傍線部①～④の漢字をひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 空欄部 (A) に入る四字熟語として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 中途半端 イ 平平凡凡 ウ 自己満足 エ 無為無能

問三 傍線部 a 「食べられて」の「られ」と同じ用法の「られ」を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 理事長は朝一番の飛行機で出かけられたようだ。

ウ まだ暑いけれど、吹く風に秋の気配が感じられる。

エ 歩いていたら、知らない人に声をかけられた。

問四 傍線部 b 「そもそも、どうして飛ばなければならないのだろうか」とありますが、鳥の飛ぶ理由を説明した次の文章の空欄部に入る適切な語句を本文中より抜き出さない。但し、I には六字、II には八字の語句を抜き出すこと。

鳥は恐竜から進化したとされており、もともとは大型の恐竜から、現在でも肉食動物などの I ため、他に争い合うことを避け、エサを求めて II ために、便利な翼を発達させていった。

問五 傍線部 c 「必要のなくなった翼を捨てて、飛ぶという無駄な能力もやめてしまった」ことを一般的には何といいますか。本文中より二字で抜き出さない。

問六 傍線部 d 「飛べ」、e 「飛ば」の違いを文法的に説明した次の文章の空欄部に入る適切な語を漢字で答えなさい。

d 「飛べ」はバ行 I 段活用の動詞「飛べる」、e 「飛ば」はバ行 II 段活用の動詞「飛ば」の活用したもので、どちらも「ない」に続いていることから活用形は III 形である。「飛べる」は「飛ぶ」から転じた動詞で、可能の意味をあらわすようになった。

問七 傍線部 f 「人間が勝手に決めた枠組み」とありますが、鳥の枠組みを解答欄の「という枠組み」につながるように二十字以内でまとめなさい。

問八 傍線部 g 「飛ぶことよりも大切なこと」とは何ですか。本文中より二十字以内で抜き出さない。

問九 本文の内容と一致するものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 飛べない鳥であるペンギンは飛ぶ能力の代わりに、陸上を力強く走り、水中を素早く泳ぐ力を手に入れた。
- イ ダチョウの卵は非常に大きい、体の割合からいうと世界で最も大きな卵を産む鳥はキーウィである。
- ウ ニュージランドに生息する珍しい鳥は、丸く太った姿がキウイフルーツに似ているのでキーウィと名付けられた。
- エ 飛ぶという行為は思った以上にエネルギーを必要とするため、大型恐竜ティラノサウルスは翼を発達させなかった。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

新婚旅行直前に、千華は久しぶりに私たち同期と会う時間を作ってくれたのだ。私としては千華がどんな暮らしを送っているのか、千華自身の言葉で聞きたかった。それなのに、奈菜と美和が大騒ぎするのを、千華はニコニコして見守るばかりだった。

(A)、千華が私の方を向いて言った。

「どうしたこと葉？　なんか今日、ちっともしゃべらないんだね」

そんなことないよ、と私が言うより早く、美和が「そうそう、そうなのよ」と口をはさんだ。

「なんか最近こと葉って口数がめっきり減ってさあ。ちよっと怪しいんだよね」

「怪しいって、何が？」と千華が訊く。

「恋でもしたんじゃないか、ってこと」と、美和が何やら不満げに答えた。

「ちよっと、何言ってるの。ちよっともそんなんじゃないから」

私はあわてて否定した。最近、美和は自分が**執心しやくしん**の**和田日間足わだかまたり**が頻繁しんぱんにわが社に出入りしているのをチェックして、『今日は何時間和田さんと一緒に過ごしたの？』などと、あからさまに**ウタガi**いのメールを送ってくるのだ。

「いや、怪しい。あいかわらず退社時間も早いようだし、他部署に移ってからはあたしたちとの付き合いもますます減ったし。ねえ千華、こと葉つてば最近ランチタイムも付き合ってくれないんだよ。仕事しながらデスク弁当だとか言ってる」

「そうだよ。ちよっとまえまでは、ランチに美味しいもの食べるために会社に來てるって公言してたのに」

(B) 責められる立場になってしまって、私はますます言葉を失なくしてしまった。

口数が減ったのは、別に恋したから、ってわけじゃない。スピーチライターになる**ココロガマココロガマ**えのひとつとして、しゃべること以上に大切なことを習得したからだ。人の話を聞く、ということ。

「スピーチライターの心得として、もつとも初歩的で、かつ難しいこと。人の話を聞けなかったら、スピーチライターにはなれないわけよ」

ワダカマが「言葉の師匠」と仰おほぐ北原正子さんに会いに「**三鷹みたかひだまり園**」を訪ねた帰り道、中央線の電車の吊革つりかにつかまりながら、久美さんの講義が始まった。

スピーチライターは、自分がスピーチをするわけじゃないから、スピーチをする人クライアント(つまり依頼主)の話徹底的に聞かなければならない。その人の声の調子、話し方、話す速度など、身体的な印象をまずはつかむ。同時に、何を考えているのか、どんなことを訴えたいのか、目指しているものは何か、その人の哲学、生き方、ポリシーを共有する。チヨチヨメイな政治家や企業のCEOのスピーチライターは、影のようにその人に寄り添って、その人のすべてを知り尽くすそうさだ。

「こんな仕事を長らくやっていると、誰かがしゃべっているのを五分聞いただけで、その人の考えていることや行く末がなんとなくわかるのよね」

久美さんが言うのを聞いて、じゃあ失業しても占い師とかになれるそうだな、などと不謹慎なことを考えてしまった。

それにしても、ワダカマの師匠・北原さんの、お年寄りの話に(C)を傾ける態度には素直に心を打たれた。そして、北原さんとともに、いまもお年寄りの話を聞くボランティアをときどきやっているとというワダカマもなかなかのものだ、素直に感心した。大企業「番通」にあぐらをかかず、常に言葉に正面から向かい合っている真摯しんしさには見習うべきものがある、と感じ入りもした。私なんてまだまだ、言葉と向かっただけでれくさくて下を向いてしまいそうなのに。

だから、どんな相手であれ、まずはその人の話をじっくり落ち着いて聞くことにした。

「話し上手は聴き上手よ」という、久美さんのひと言を肝に銘じて。

それが、奈菜や美和の(D)には「怪しい」と映ってしまうのだから、私っていままでどれだけおしゃべりだったんだろう。

(原田マハ『本日は、お日柄もよく』による)

《注》 *1 和田日間足……こと葉の会社に入ります「番通」の社員。後に出てくる「ワダカマ」は同一人物である。

*2 久美さん……スピーチライターを目指すこと葉の師匠。

問一 二重傍線部①⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直さない。

問二 空欄部（A）（B）に入る適切な語を次のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア なぜか イ ふと ウ きつと エ おそらく オ けっして

問三 傍線部a「ちっともそんなじゃないから」とありますが、こと葉が「そんなじゃない」状態になったのはなぜですか。解答欄の「ため」につながるように本文中より二十五字で抜き出さない。

問四 傍線部b「ご執心」の意味として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 怒りを抱いていること イ 深く思いをかけること ウ 期待を寄せていること エ 関心がないこと

問五 空欄部（C）（D）に入る身体の一部を表す適切な語をそれぞれ漢字一字で答えなさい。

問六 主人公についてまとめた次の文章の空欄部にあてはまる語句を本文中より抜き出さない。但し、Iは三字、IIは四字、III・IVは五字で答えること。

主人公はスピーチライターを目指す女性である。師匠の久美さんから、スピーチライターにとってもつとも I で、かつ難しい技術は、人の

II ことだと学んだ。また、スピーチライターは、依頼主の声の調子や話し方、話す速度を観察し、彼らの III ことや目指すもの、哲学や

ポリシーを理解する必要があることも知った。特に政治家や企業のCEOのスピーチライターは、その人物に寄り添い、彼らのすべてを IV ことが求められることを知り、友人との会話の中で実践し、スピーチライターとして成長しようとしている。

【四】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。（原文の漢字・仮名づかいを一部改変しています。）

a 山に、^a 叡実阿闍梨^{*1}といひて貴き人ありけり。帝の御悩み重くおはしましけるころ、^b 召しければ、度々辞し申しけれど、重ねたる^c 仰せ^d 否^e びがたくて、なまじひに

まかりける道に、あやしげなる病人の足手も叶はずして、ある所の^f 築地^g のつらにひらがり伏せるありけり。

c 阿闍梨、これを見て、悲しみの涙を流しつつ車よりおりて、あはれみ訪ふ。昼、求めて敷かせ、上に^h 仮屋ⁱ さしおほひ、食ひ物求めあつかふほどに、やや久しく

なりにけり。勅使、「日暮れぬべし。いといと便なき事なり」と言ひければ、「参るまじき。かく、その由を^j 申せ^k」と言ふ。御使驚きて、^l 故^m を問ふ。阿闍梨言ふやう、

「世を厭いとひて、心を仏道に任せしより、帝の御事とても、あながちに貴たつとからず。かかる非人とても又おろかならず。ただ同じやうに覚ゆるなり。それにとりて、君hの御祈りのため、験*7あらん僧を召さんには、山々寺々に多かる人、誰かは参らざらん。更に事欠くまじ。この病者に至りては、厭*8ひきたなむ人のみありて、近づきあつかふ人はあるべからず。もし、我捨てて去りなば、ほとほと寿いのちも尽きぬべし」とて、彼をのみあはれみ助くる間に、つひに□
ずなりにければ、時の人
ありがたき事になん言ひける。

この阿闍梨をはりに往生をとげたり。

(『発心集』による)

《注》 *1 阿闍梨……高僧の敬称。 *2 なまじひに……仕方なく。 *3 築地のつら……土塀の側。 *4 飯屋……飯に作つた小屋。

*5 便なき……都合が悪い。 *6 非人……非常に貧しい人。 *7 験……効果。 *8 きたなむ……汚がる。

問一 傍線部 a 「山」とは具体的にどの山のことだと考えられますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 比叡山 イ 富士山 ウ 高尾山 エ 天保山

問二 傍線部 b 「召しければ」、e 「言ふ」の主語として最も適切なものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 阿闍梨 イ 帝 ウ 病人 エ 勅使

問三 傍線部 c 「これ」の指示内容として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 帝の病状があまりにも重いこと。 イ 召している僧が行くのを断っていること。

ウ 病人が道で腹ばいになっていること。 エ 道に不審物が転がっていること。

問四 傍線部 d 「さしおほひ」、g 「言ふやう」の読み方を現代仮名づかいに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問五 傍線部 f 「故」として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 病人の看病をしていて日が暮れてしまい、遅い時間に参上するのは帝に対して失礼で申し訳ないから。

イ 道端の病人を目にし、自らの病のために何度も繰り返し阿闍梨を呼びつけた帝に対して反感を覚えたから。

ウ 軽度の病を治すことはできるが、帝のような重い病を治すことは到底できないから。

エ 帝のために参上する人はいくらでもいるが、今日の前にいるような病人のために力を尽くす人はいないから。

問六 傍線部 h 「君」と同じ人物を、本文中より一字で抜き出しなさい。

問七 空欄部 □ に入る語を本文中より二字で抜き出しなさい。

問八 叡実阿闍梨は、身分の高い人とそうではない人についてどのような見解を述べていますか。最も適切な一文を本文中より抜き出し、最初の五字で答えなさい。

